

カツオ 東部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 100 cm・30 kg
- 寿命：6 歳以上
- 成熟開始年齢：1 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C 以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類など

利用・用途

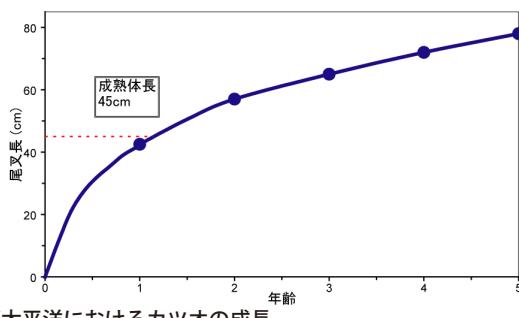
缶詰原料

漁業の特徴

現在の漁獲はほとんどがまき網による。まき網では、集魚装置 (FAD) を用いる操業と素群れを対象とする操業があり、漁場はカリフォルニア沖から北部南米沖である。国別ではエクアドルが約半分を占め、次いでパナマ、米国、メキシコなどが主要な漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量ははえ縄によるわずかな量のみである。

漁獲の動向

1950 年代までは竿釣りを主として約 5 万トンの漁獲であったが、1960 年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990 年代から漁獲量は増加傾向にある。近年の総漁獲量は 20 万～30 万トンを維持している。2017 年は 32.7 万トンであった。

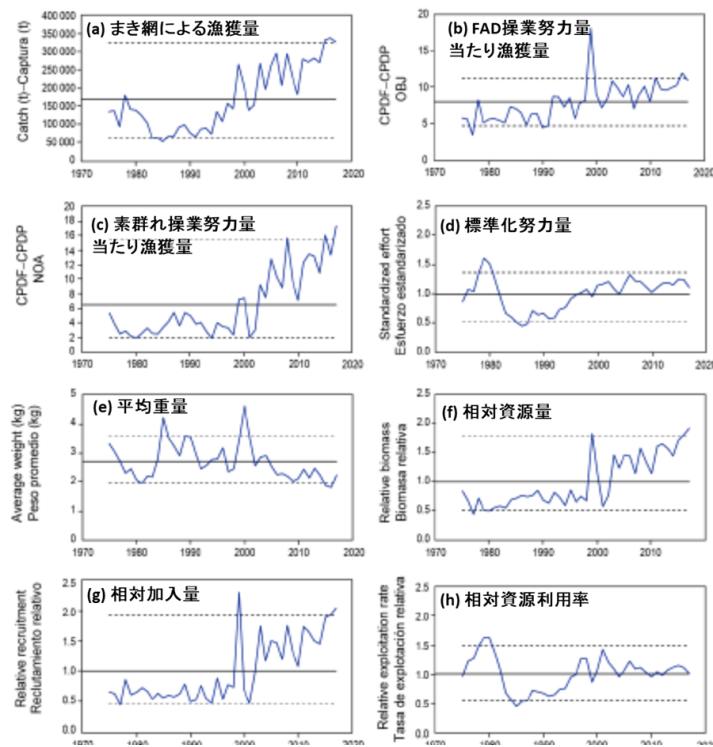


資源状態

最新の資源評価は IATTC 事務局により 2012 年に 4 つの手法 (a. 漁業・生物学的指標値；b. 標識データ解析；c. サイズ組成資源評価モデル；d. 空間資源動態モデル) により行われた。相対資源量は 2000 年以降増加に転じ現在まで横ばいで推移している。相対加入量も同様の傾向を示し、2000 年以降横ばいで推移している。資源状態は不確実であるが、資源が悪化する明確な証拠はないとのされ、資源は高位、横ばいと判断された。2018 年には、前年までの各種の漁業・生物学的指標値（まき網による漁獲量、FAD 操業 CPUE、素群れ操業 CPUE、標準化努力量、平均（漁獲個体）重量、相対資源量、相対加入量、相対資源利用率の 8 つ）が更新された。漁業・生物学的指標値からは資源状態を判断することは難しいが、更新された FAD 操業 CPUE、素群れ操業 CPUE においてはともに低下傾向が認められなかった。

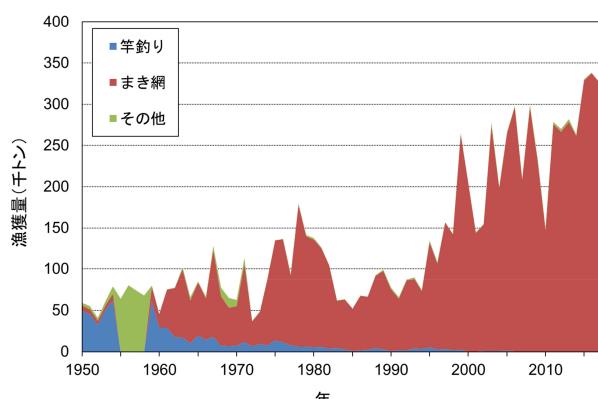
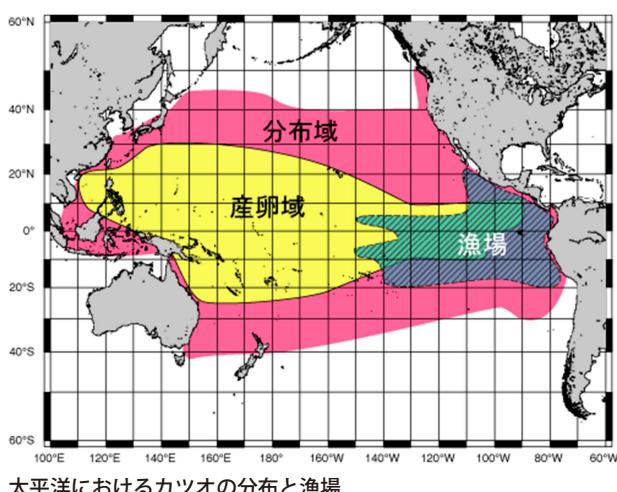
管理方策

- 資源状態は高位、横ばいであり、本種を対象とする保存管理措置は IATTC において導入されておらず、メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業に対し 72 日間の全面禁漁および沖合特定区での 1 か月間の禁漁が導入されており、結果的に本種に対する漁獲努力量は制限されている。
- 2016 年 6 ～ 7 月に開催された IATTC 第 90 回年次会合において、以下の内容とする漁獲管理ルールが合意。
 - ①最も厳しい管理を必要とする魚種については、まき網漁業に対する措置を複数年固定できるようにし、漁獲死亡率を、最大持続生産量 (MSY) を達成する水準以上とならないよう維持する。
 - ②漁獲死亡率が限界管理基準値（親子関係を想定し、加入が初期資源加入量の 50% に減少する状態における産卵親魚量を維持する漁獲死亡率）を超える確率が 10% 以上となる場合、50% の確率で MSY を達成する水準以下となるまで削減し、かつ限界管理基準値を超過する確率を 10% 以下とする措置を可能な限り早期に実施する。
 - ③産卵親魚量が限界管理基準値（親子関係を想定し、加入が初期資源加入量の 50% に減少する状態における産卵親魚量）を下回る確率が 10% 以上となる場合、50% 以上の確率で目標水準（MSY を達成する水準の産卵親魚量）まで回復させ、かつ限界管理基準値を下回る確率を 10% 以下とする措置を 2 世代以内 5 年以内のうちより長い期間中に実施する。
 - ④まき網漁業以外の漁業に関する追加規制を IATTC 事務局職員が勧告する際には、対象資源に与える相対的な影響も踏まえ、まき網漁業で採択された措置と可能な限り一貫性を持たせる。



東部太平洋におけるカツオ資源指標

(a) まき網による漁獲量、(b) FAD 操業努力量 (CPUE) 当たり漁獲量、(c) 素群れ操業努力量 (CPUE) 当たり漁獲量、(d) 標準化努力量、(e) 平均 (漁獲個体) 重量 (kg)、(f) 相対資源量、(g) 相対加入量、(h) 相対資源利用率 (CPDF : Catch per days fished)。



カツオ（東部太平洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	26.3 万～33.8 万トン 最近 (2017) 年 : 32.7 万トン 平均 : 30.8 万トン (2013～2017 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	18～70 トン 最近 (2017) 年 : 18 トン 平均 : 42.4 トン (2013～2017 年)
管理目標	MSY
資源評価の方法	サイズ組成資源評価モデル、 空間資源動態モデル
資源の状態	まき網素群れ CPUE と FAD CPUE から過剰に利用されていないと考えられる。
管理措置	特定の措置はなし (メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業に対し 72 日間の全面禁漁および沖合特定区での 1か月の禁漁が導入されており、結果として本種に対する漁獲努力量は制限されている)
最新の資源評価年	2012 年 (2018 年に指標値のみ更新)
次回の資源評価年	未定